

2015年12月11日発売(年4回刊)第50巻第1号 巻197号

ISSN 1345-6105

Stereo Sound

**GRAND
PRIX
2015**

ステレオサウンドグランプリ

**2015-2016
ベストバイ**

コンポーネント 569選

SINCE 1966

50



特別付録

ステレオサウンド
表紙
カレンダー

2 0 1 6
W I N T E R
N o . 1 9 7

2015 GRAND PRIX

2015年度のオーディオ界を 的確に反映した 満足度の高い 充実のグランプリ

ステレオサウンドグランプリ選考委員。写真左から染谷一(本誌編集長)、小野寺弘滋、三浦孝仁、柳沢功力(選考委員長)、傳信幸、和田博巳、原田勤(本誌編集主幹)。2015年11月1日、ステレオサウンド社前にて。

——2015年のオーディオ界を締めくくる「ステレオサウンドグランプリ2015」の選考が終了し、受賞製品が決定いたしました。
各受賞製品に関するお話は後ほどおうちがいたしますので、今年のグランプリ

りの選考を振り返り、総評をお話してください。選考委員長の柳沢功力先生を皮切りに、座席順に三浦孝仁先生、小野寺弘滋先生、傳信幸先生、和田博巳先生の順でお願いいたします。
柳沢 今年も昨年同様に新製品の総数が多い年でした。さらに事前のノミネート数も多く、その数は80機種近くにも達した。昨年も選考に時間を要しましたが、今年はそれ以上に、記憶をさかのぼっても、これほど長時間におよんだグランプリの選考会はありません。大変な選考会でしたね。

そして異例だったことがもうひとつ。受賞製品の一覧表をご覧いただければおわかりの通り、スピーカーの数が極端に少なく、アンプの数が多いう、これまでのグランプリではあまり見られなかった傾向となっていることです。受賞製品28機種の中で、スピーカーはわずかに4機種です。から。
ただし、これが寂しい結果かというところではないですね。優秀機が厳選されて、完成度が格段に高いスピーカーが揃った、実に満足度の高い選考結果となっているように思います。

三浦 ゴールデンサウンド賞を獲得した802D3の内容がそれを象徴していますね。柳沢 そうですね。さらに、異例というべきか興味深いことがもうひとつあります。それはリアンプとパワーアンプをあわせて計13機

ステレオサウンドグランプリ 2015 決定!



種が受賞したアンプの中で、約半数近くを管球機が占めたことです。アナログ関連の受賞が5機種あることを含めて、これはある種の復古調といってもいいでしょう。もちろん復古調といっても、決して古くさくて駄目だとの意味ではなくて、古き良き物に目を向けてさらに深く楽しもうという、近年のオーディオや趣味全般の風潮が表われた結果のような気がしますね。

三浦 新しいものであるデジタルオーディオの分野は、ディスクプレーヤーがそのほとんどを占めていた時代から、様相が大きく変わってきましたね。コンピューターを活用するデジタルファイル再生の分野がますます盛り上がりつつある印象で、ソフトウェア・テクノロジーと完成度を上げ、マージング・テクノロジーズによるLAN接続DACというヴァリエーションも新たに加わった。これらが代表するようには、今年ハイエンドオーディオにおけるデジタルファイル再生の完成度が飛躍的に高まったことを実感した一年でした。

和田 ハイエンドオーディオの世界では、2015年こそがハイレゾ元年といえるのかもしれないですね。
傳 それはわたしも異論がありません。
三浦 それから個人的に少し意外だったのが、アナログ関連の受賞が5機種だったことです。これは数としては多いのですが、選考前にはもっと増えると思っていたんです。それぐらい、

今年のアナログ関連機器の製品数の多さと充実ぶりが凄かった。

和田 それはばくも同感ですね。グランプリに推したいアナログ製品は例年以上に多かった。個人的にはなんでこれが受賞しないんだという製品がいくつもありまして、今年も悔しい思いをしています(笑)。

小野寺 ばくも同じです(笑)。
三浦 ばく、だってそうですよ(笑)。

ただ、受賞結果を全体として考えると、大変に満足しています。上級となる800D3が来年度登場することがすでにB&Wからアナウンスされている中で、802D3がゴールデンサウンド賞を受賞しましたが、この結果にも大納得で、802D3が聴かせた完成度の高い音は、ゴールデンサウンド賞にふさわしいですね。今年最高の音を聴いたという充足感があります。

小野寺 冒頭に柳沢先生がおっしゃったように、ばくも今年の選考は物凄く大変だったように思います。準備の段階からそれは始まっている、毎年、選考会前日に最大30機種のノミネートリストを編集部に提出するんですが、今年はそのリストを中々完成させることができませんでした。例年ですと、割とスムーズにある程度まで数を絞り込めるんです。ところが、今年最初に絞り込んだ時点で50機種を超えていて、そこから中々30機種に絞ることができず、頭を抱えてしまいました。



ます。デジタルファイルに対してこんなにたくさんぼくが語るの初めてかもしれないけれど(笑)、それぐらいの進化を感じました。三浦 以前からわれわれが問題視している、PCMとDSDファイルが混在したときに発生するファイル切り替え時のノイズ処理など、ソフトウェア側ではその使い勝手を含めて、まだまだ解決すべき課題はいくつか抱えています。しかし、オーディオ機器として大きな進歩があった一年とあっていいでしょう。

傅 いっぽうで今年も2種類のデジタルディスクプレーヤーが受賞しています。このところ毎年のように申し上げていますが、わたしはディスクプレーヤーを今も変わらずに開発し続けてくれるメーカーに本当に感謝を申し上げます。

現在のデジタルファイルの再生は自作オーディオの世界に近いと思うんですが、まるで半田こてがマウスに変わったかのよう

ないイメージです。なぜなら、再生用PCの機種違いやOS違いはもちろんのこと、その設定や再生ソフトウェアの選択でコロコロと音が変わるからです。もう、その道のエキスパートが設定を行なうとそれこそ雲泥の差と思えるほど、音が変わってしまうわけです。これはオーディオ機器に信号を送り込む前の話です。か、試聴をしても、いったい何の音を聴いているのかわからないほどです。加えて、ハブの有無やNAS等の周辺環境を整える作業があるわけですからね。デジタルファイル再生でいい音を出すためには、PCの専門家にならないといけないわけです。

それに対して、ディスクプレーヤーは手に入れさえすれば、すぐに音が出せますし、結線した時点である程度の音が保障されている。使い手は特殊な技術を習得することなく、音楽を聴くことができるわけです。ディスクプレーヤーにはメーカーやこれまでのオーディオ文化が培ってきた叡智が詰まっているんです。いかに自分がそうした恩恵を受けて、音楽を聴いてきたのかを、デジタルファイル再生に取り組みほかに感じていきます。

ただ、いよいよその叡智のようなものを感じさせつつあるデジタルファイルプレーヤーが現われ始めました。その代表例がリンと聞いていいでしょう。日々着々と進化を重ねている印象で、その熱意には本当に頭が下がる想いです。

和田 そうですね。最初にリンのDSに触れて、敬遠してしまった人がいらっしやうとしたら、いま、もう一度触れてみることをお勧めしたいです。別モノと違っていいぐらい、様々な面で洗練されていますから。

傅 本場にそう思いますね。それとゴールドサウンド賞に輝いた802D3にはやはり大いに驚かされました。B&Wの800シリーズは5年程度の周期でヴァージョンアップを繰り返していますが、今回の進化ぶりは物凄いです。スピーカー専門メーカーの底力をまざまざと見せつけられた想いです。

和田 ぼくが注目したのは、やはり今年の受賞製品の半数近くを占めるアンプの多彩さです。アンプは、プリアンプが6機種、パワーアンプが7機種受賞していますが、トランジスター式や真空管式という増幅素子の違い以前に、その音がモデルごとに実にヴァリエーションに富んでいるんです。しかもグランプリを受賞するぐらいですから、どれも大変魅力的で、そのすべての音が違う。ブラインドで聴いても、全部を的確に聴き分けられるんじゃないかと思うぐらい。

柳沢 確かにそんな感じですね。

和田 本場にいい音は、ひとつの方向に収束していくんじゃないかって思う方がいらっしやるかもしれないんですが、そんなことはまったくなくて(笑)、オーディオの素晴らしさを改めて感じることができました。

Stereo Sound Grand Prix 2015 受賞製品一覧

ブランド	型名	価格	ジャンル
1 ゴールドサウンド賞 B&W	802D3 (Piano Black)	¥3,600,000 (ペア)	Loudspeaker
2 マジコ	S7 (M-COAT)	¥10,500,000 (ペア)	Loudspeaker
3 KEF	Blade Two (Frosted Blue)	¥2,970,000 (ペア)	Loudspeaker
4 フォーカル	Sopra No2	¥2,600,000 (ペア)	Loudspeaker
5 dCS	Rossini Player	¥3,590,000	Digital Disc Player
6 TAD	TAD-D1000MK2	¥1,600,000	Digital Disc Player
7 マージング・テクノロジーズ	Merging NADAC (stereo)	¥1,200,000	D/A Converter
8 スフォルツアート	DSP01	¥2,830,000	Digital File Player
9 リン	Klimax DS/2	¥2,400,000	Digital File Player
10 ヴィオラ	Sonata	¥4,200,000	Preamplifier
11 CHプレジジョン	L1	¥4,100,000	Preamplifier
12 テクニカルプレーン	TBC-Zero EX2 Complete	¥3,980,000	Preamplifier
13 マッキントッシュ	C1100	¥2,000,000	Preamplifier
14 アキュフェーズ	C3850	¥1,800,000	Preamplifier
15 ウェスギ	U・Bros 280	¥750,000	Preamplifier
16 オクターブ	Jubilee Mono SE	¥11,000,000 (ペア)	Power Amplifier
17 アインシュタイン	The Silver Bullet OTL	¥7,600,000 (ペア)	Power Amplifier
18 クオリア アンド カンパニー	Dogma 600	¥5,000,000 (ペア)	Power Amplifier
19 マークレビンソン	No.536	¥3,400,000 (ペア)	Power Amplifier
20 コンバージェントオーディオテクノロジー	JL5 Signature	¥2,800,000	Power Amplifier
21 エソテリック	Grandioso S1	¥1,900,000	Power Amplifier
22 ラックスマン	MQ300	¥1,600,000	Power Amplifier
23 ターレストーンアーム	TTT-Slim+Easy	¥1,800,000 (セット)	AD Player
24 テクダス	Air Force III (アームレス)	¥1,800,000	AD Player
25 バーグマン	Magne	¥1,500,000	AD Player
26 フェーズメーション	PP2000	¥440,000	Phono Cartridge
27 アコースティカル・システムズ	Aquilar	¥980,000 (予備)	Tonearm
28 トリノフ・オーディオ	ST2 HiFi	¥1,080,000	Sound Optimizer

何がしたいかというところ、グランプリやそれに続くクリティクス・アプローブは受賞していないけれど、それに勝るとも劣らない素晴らしい製品が今年も他にも数多く存在するということなんです。

加えて、この一年を通して印象的だったのが、三浦さんがおっしゃったデジタルソース機器の多様化と進化ぶりです。特にハイレゾと呼ばれるデジタルファイルですが、これまではワイドレンジであるとか、音がたぐさん見えることがいいことだ、といったところで勝負していた印象があったのが、今年の製品群は、音楽性や音楽の躍動的な部分を表現できるものが増えてきたように感じられました。

傅 分析的ではなくて、聴いていて楽しいということですよ。

小野寺 そうなんです。音楽表現に長けた製品が明らかに増えてきたように思

精密さ、緻密さがそのまま音に出ている
ハイスピード、そしてマツシヴなサウンド。

ターレス・トーンアーム TTT-Slim+Easy ¥1,800,000 (セット)

トーンアーム部(Easy) ●型式:スタティックバランス型 ●適合カートリッジ重量:5~20g ターンテーブル部(TTT-Slim) ●駆動方式:ベルトドライブ ●回転数:33・1/3・45rpm ●寸法/重量:本体-W423×H72×D305mm/11kg ●備考:バッテリードライブ式 ●問合せ先:(株)ユキム ☎03(5743)6202 ●誌記掲載:197号

AD Player THALES TONARM



って、今年のTTTスリムマイジーで同社は3回目のグランプリ受賞となるわけです。傳 TTT-Cも大変にコンパクトなアナログプレーヤーでしたが、TTTスリムはより小型で、レコードをかけるのにギリギリといっているくらいのサイズに仕上げられています。小野寺 その小型化というのが、実に音によく出ていると思うんですよ。傳 ハイスピード、そしてマツシヴなサウンドですよ。小野寺 そうなんです。反応がとても早い。しかも音の質量感がしっかりありますから、

説得力がある。和田 見た目のコンパクトさ、精密さ、緻密さ、それがそのまま音に出ている、小気味よいプレーヤーですよ。傳 ハイスピードとはいっても、オーバーシュートはしません。小野寺 立ち上がりもいいし、いわゆる立ち下がり、音の消え方もひじょうに速い。これは余分な質量がないせいでもありますね。したがってローレベルがとても美しく、聴感上のダイナミックレンジが極めて広い。三浦 ただ、脚部を含めてリジッドな構造の

Profile

トラッキングエラーを限りなくゼロに近づけることを目指して開発された、独自の機構を持つトーンアームThalesで、2008年に日本デビューを果たしたスイスのターレス・トーンアームが、ターンテーブルの2作目となるTTT-Slimを発表。Easyトーンアームとのセットで、ステレオサウンドグランプリを受賞した。TTT-SlimはEasyのポテンシャルを最大限に引き出すために開発されたとアナウンスされており、バッテリードライブやOリングを用いた(二重)プラッターの駆動方式等の基本的な機構を同社1作目のターンテーブルTTT-Cから受け継ぎつつ、シンプルで細身のEasyにあわせて、アルミ削り出しのボディが薄く仕上げられている。

しては、定位もひじょうに明確ですし、大変にいいプレーヤーだと思いますね。

小野寺 スイスのターレスは、オフセットアームでレコードをトレスするときに不可避なトラッキングエラーをゼロに近づける、特殊な複雑な構造のトーンアームでスタートしたブランドです。三浦 時計技師だった設計者ならではの精巧な技術が軸受け構造に投入され、精密機械好きにはたまらないものがあります。小野寺 その後、比較的シンプルな機構でトラッキングエラーを解消するシンプリシテイ、さらに取り扱いが容易になったイージーとラインナップを揃えてきました。三浦 シンプルシテイは、昨年II型になってグランプリを受賞しましたね。小野寺 ターンテーブルもターレスは開発していて、3年前にはTTT-Cというモデルが、シンプリシテイとの組合せでグランプリを受賞しました。したが

プレーヤーですから設置にはユーザー側の配慮が求められます。そこだけぼくは気になりましたけれど……。小野寺 ぼくはけっこう大音量出したけど、特に問題は感じなかったなあ。三浦 普通は大丈夫だと思えます。ですけども、超低域が高レベルで入ったソースなどを聴いたりするとフィードバックの対策をしたくなるんです。素性と